既知の非互換性の傘ローミングクライアントを理解する

内容

はじめに

このドキュメントでは、Cisco Umbrellaローミングクライアントの既知の非互換性について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Umbrellaローミングクライアントに基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

概要

Cisco Umbrellaローミングクライアントはすべてのネットワークアダプタにバインドされ、コンピュータのDNS設定を127.0.0.1(localhost)に変更します。 これにより、Umbrellaローミングクライアントは、すべてのDNSクエリをUmbrellaに直接転送でき、内部ドメイン機能を介したローカルドメインの解決が可能になります。

これらのソフトウェアとハードウェアは、これらのアクションの実行を防止するか、動作するた

めに特定のDNS設定を必要とする同様のロジックを備えています。そのため、Umbrellaは、表に記載されている製品と一緒にUmbrellaローミングクライアントを実行することは推奨しません。

詳細や質問については、Umbrellaサポートにお問い合わせください。

[ソフトウェア（Software）]

[ソフトウェア（Software）]	説明
Blue Coat K9 Web保護	Blue Coat K9 Web Protectionでは、サードパーティアプリケーション（Umbrellaローミングクライアントなど）によるDNSの変更は許可されておらず、この点に関して例外を作成する方法はありません。UmbrellaローミングクライアントとK9 Web保護は、同じコンピュータ上では実行できません。
DNSMasq	DNSMasqは、DNSをキャッシュし、システムサービスとして実行されるソフトウェアです。ポート53（DNSが使用するポート）のすべてのネットワークアダプタにバインドされ、Umbrellaローミングクライアントと競合する
Kaspersky AV 16.0.0.614。	Kaspersky AVの2016版は、DNSのフローを中断する可能性があるため、Windows 10のバージョン16.0.0.614と互換性がありません。バージョン16.0.1.445以降に更新してください。 確認手順：Umbrellaローミングクライアントをオフにするか、アンインストールし、DNSを208.67.222.222にポイントして、問題が引き続き発生することを確認します。DNSテスト「nslookup -type=txt debug.opendns.com」がセットアップされている間、Kasperskyがオンになっている間は一部の時間がタイムアウトし、DNS解決が遅くなる可能性があります。

VOIP電話ソフトウェア

報告によると、Umbrellaローミングクライアントがインストールされて実行されている場合、次のVOIPソフトウェアは動作しません。

- Jiveモビリティ
- カウンターパスX-Lite
- メガパスUC

不明な理由により、アプリケーションが127.0.0.1:53にバインドされている場合、一部のVoIPクライアントが起動に失敗したり、正常に動作しない可能性があります。これは、Umbrellaローミングクライアントが行うものです。これらのVoIPクライアントは、そのIP:PORTへのバインドを必要としないようですが、起動に失敗します。

3G/4Gホットスポットおよび物理アダプタ

この3G/4Gホットスポットと物理ネットワークアダプタのリストには、DNS変更に関して変更できない動作があります。

3G/4Gホットスポット	その他
Vodafone（ファーウェイ）E272	ASIX AX88179 USB 3.0 to Gigabit Ethernetアダプタ

一部のUSBベースの3G/4Gホットスポットデバイスやその他のデバイスは、ファームウェアやソフトウェアでUmbrellaローミングクライアントと同じロジックを使用します。クライアントのDNSサーバアドレスが、ソフトウェアまたは3G/4Gホットスポットによって予期しないものに変更され、DNS設定が以前の設定に戻されます。次に、Umbrellaローミングクライアントが同じ操作を実行し、すべてのDNSサーバを127.0.0.1に戻します。

この競合により、VPN接続のDNSサーバがリセットされるサイクルが無限に繰り返される可能性があります。その結果、信頼性の高いDNS解決が行われず、Umbrellaセキュリティサービスからの保護が不完全になります。

現時点では、これらのソフトウェアプログラムおよびUSBベースの3G/4Gデバイスとアダプタに対応するための変更は予定されていません。将来的には、Umbrellaは、コンポーネントの競合を検出するとUmbrellaローミングクライアント自体を無効にできる補償制御を実装できます。

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。